

## NPO 自立支援センター ふるさとの会

2005.8.20  
【第5号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

HOME PAGE

SCHEDULE

EVENTs

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。  
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。  
ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

## INDEX

- 1.9月3日シンポジウムについて
- 2.10月9日「山谷発」ライブ会場のお知らせ
- 3.10月10日シンポジウムについて
- 4.自立支援プログラムの可能性について(レポート)

## 1.9月3日シンポジウムについて

当初の予想を超えて成功裏に信仰していると考えられるホームレス地域生活移行支援事業ですが、「Housing Firstだと、就労意欲を喚起できない」、「地域社会に生活の根を張っているとは言えない」など関係者の間にも様々な議論があるようで、さらに、都区においては、この事業の継続について疑義も出ているやに聞きます。しかし、アパート生活がはじめての人もいますし、はじめての土地で生活を始める人もいます。だからこそ、地域で支えあう体制づくりこそ必要なのではないでしょうか。前半は各公園の支援受託団体の報告、後半は評価・提言・展望について議論をしていく予定です。

<日時> 9月3日(土) 13時開場 13時半開始(～17時終了予定)  
<場所> 東京芸術劇場大会議室(池袋西口駅前)  
<入場料> 1,000円(資料代込み)  
<タイトル> Housing Firstと社会参入(地域での支えあい)  
<パネリスト>

池田幹雄(東京都)  
笠井和明(NPO新宿ホームレス支援機構事務局次長)  
大野哲男(新宿区福祉部副参事自立支援担当)  
水田 恵(NPOふるさとの会代表理事)

## 2.10月9日「山谷発」ライブ会場のお知らせ

「ふるさとの会」と「ぼやぼやバンド」が出会ってあしかけ15年。それを記念し交流会を行うこととなりました。「小原哲次郎カルテット」などのスペシャルゲストも招きライブを開催いたしますので、是非足をお運び下さい。

<日時> 10月9日(日) 13時半開場 14時開演  
<場所> 浅草5656会館 5階ときわホール  
3.10月10日シンポジウムについて

平成17年度より生活保護制度において、ホームレスの自立支援を「就労自立」だけでなく、「日常生活自立」や「社会生活自立」などそれぞれの能力やニーズに応じた「多様な自立」を図ろうという目的のもとで「自立支援プログラム」の導入が推進されることになりました。

「ホームレスの人権擁護」にきちんと政府が予算をつけたという意味では画期的な「ホームレス自立支援法」の発展的なものと捉えることのできる「自立支援プログラム」ではありますが、やり方次第では、ヨーロッパにおける「ワークフェア」のような危うさを抱えているのも事実でしょう。ホームレスの自立支援を長年展開してきたNPOとして、この「自立支援プログラム」にどのように向かうべきなのかについて議論を深めていく予定です。

<日時>  
10月10日(月・体育の日)13時開場 13時半開始(～17時終了予定)  
<場所>  
サンパール荒川ホール  
<入場料>  
1,000円(資料代込み)  
<タイトル>  
自立支援プログラムとソーシャルインクルージョン  
<コーディネーター>  
山岡義典(日本NPOセンター副代表・法政大学教授)

## &lt;基調講演&gt;

布川日佐史(静岡大学人文学部教授)

## &lt;パネリスト&gt;

稲生久雄(東京都)

笠井和明(NPO新宿ホームレス支援機構事務局次長)

野々村泰通(元中野区ケースワーカー)

水田恵(NPOふるさとの会代表理事)

## 4.自立支援プログラムの可能性について(レポート) ワークステーション ふるさと

ホームレス、高齢者などの就労困難層に向けた就労支援をワークステーション ふるさとは積極的に行ってきました。そして今、生活保護受給者(以下、被保護層)に対しての就労支援として、自立支援プログラムを活用してのサポートに乗り出しました。

この自立支援プログラムとは、被保護層の自立を促すことを目的として生まれたもので、就労による経済的自立を目指した「就労自立」。

身体や精神の健康を回復し、また維持することで日常生活において自立する「日常生活自立」。

社会とのつながりを回復し、地域社会の一員として充実した生活を送る「社会生活自立」の3つの柱から成り立っています。

ワークステーション ふるさとは被保護層に技能講習を受けていただき、その技能を必要とする企業に就労していただくことを主に、この自立支援プログラムについて様々なメニューを用意しています。

例えば倉庫業務であればフォークリフトとパソコン。サービス業であれば接客講座と外食チェーン・レストランなどでの実地研修です。

また苦境を知るからこそ、同じような境遇の人のサポートができると考えてのNPOの体験講習と実地研修。また何かと話題になっているニートと呼ばれる若者に向けては、汗を流して働くことの気持ちよさを知ってもらおうと農業や漁業の体験講習などの就労意欲を掘り起こすメニューも設定。

民間企業はもちろん、他のNPO団体との連携をはかるなど、様々な角度から自立支援プログラムの可能性に取り組んでいます。

そして母子加算の見直しが求められている母子世帯の母親(以下、母子の母親)に対して、ヘルパーの資格を積極的に勧めています。

これはある調査で、母子の母親が挙げた最も就きたい仕事がヘルパーだからです。

また、ふるさとの会の関係事業にヘルパーステーション ふるさとがあるからでもあります。

母子の母親がヘルパー講習を受講し、資格を取った後、ヘルパーステーション ふるさとに登録。

そして経験を積み、他の企業へと巣立っていく。

つまり社会復帰への不安や育児といった母子の母親が抱える問題を、ふるさとの会の持つ関係事業間の連携を最大限に活かして見守っていく、そういう理想的な体制をワークステーション ふるさとは持っています。

福祉を取りまく状態は常に変化しています。だからこそ今できること、今やれることを考えなければなりません。

ワークステーション ふるさとは自立支援プログラムを活用しての被保護層の自立を精力的にサポートしていきたいと考えています。

小林

発行元:特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031東京都台東区千束4-39-6

TEL:03-3876-8150 FAX:03-3876-7950